



旧石狩小学校の
円形校舎

理振^{りしん}30年度

石狩市教育委員会では、昨年3月に閉校した旧石狩小学校の円形校舎を10月末まで一般公開しています。今回取り上げるのは、旧石狩小学校に残されていた歯車の模型です。

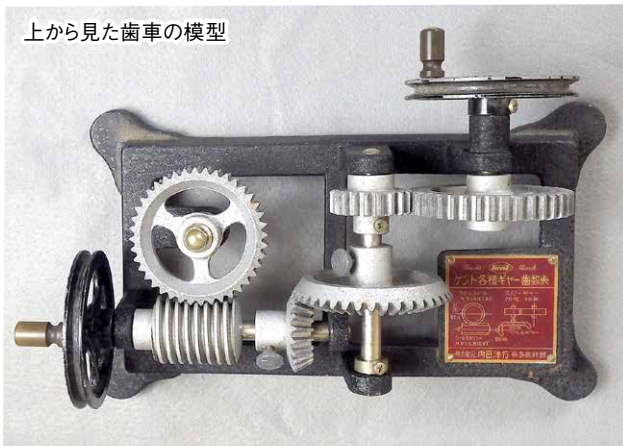
これは、いろいろな歯車の組み合わせにより回転の方向や回転数が変わることを理解するための模型で、片方のハンドルを回すと歯車を介してもう一方のハンドルも回転します。

この模型の側面には「理振30年度」と白いペンキで書かれています。「理振」とは、理科教育振興法に基づく理系（理科・数学）の教育に必要な実験道具などの購入費を補助する制度のことです（略して理振と呼ばれます）。

理振は昭和29年に施行されており、この模型は制度ができた直後の昭和30年度に購入されたものだと考えられます。

昭和30年というと、石狩小学校が円形校舎に建て替えられる前年ですが、当時は戦後の物不足が続いており、国民の生活もまだ豊かとは言えず、教材も不足しがちでした。

上から見た歯車の模型

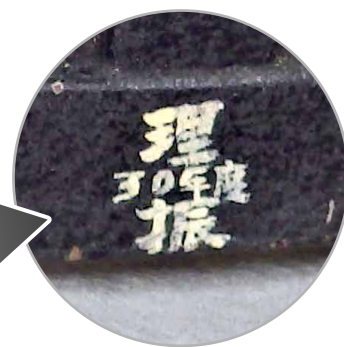


この模型からは、そんな状況の中で当時の石狩町や石狩小学校の先生方が施行直後の新しい制度を積極的に利用して教材を充実させようとしていたことがうかがえます。

（工藤義衛）



拡大



側面に記された「理振30年度」



石狩市学芸員
工藤義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。

文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ※火曜休館 ☎62・3711